

(概要版) 倶知安町人口ビジョン (2025(令和7)年3月改訂)

発行：倶知安町

これまでの人口の推移（1980年～2020年）

倶知安町の総人口は、1980年から2020年までの40年間で3,764人減少しました。5年ごとの減少率は平均▲2.7%、年率で▲0.5%でした。

1980年はいわゆる団塊の世代が30歳代で、その子世代（団塊ジュニア）も5～9歳を中心に多くなっていました。

一方、2020年では45歳から49歳が男女ともに世代の中で多い年齢層となっているのに対し、24歳以下の世代が極端に少ない形になっています。

25年後の2050年に、どのように少子高齢化を乗り越え、バランスのとれた人口構成を目指すかが問われています。

「倶知安町人口ビジョン」が示す取り組みの方向性

①こどもを産み、育てやすい環境をつくる

- ・「このまちに住み続けたい」と思えるまちづくり
- ・切れ目のない支援により、住民が安心して働き、若い世代が希望通り結婚し、妊娠、出産、子育て、教育ができる社会環境の実現

②人手不足を解消し、産業を振興する

- ・色々な地域から来た人材が働ける場所づくり
- ・進学や就職で一度は本町を離れた子ども達が帰ってきたくするような環境づくり

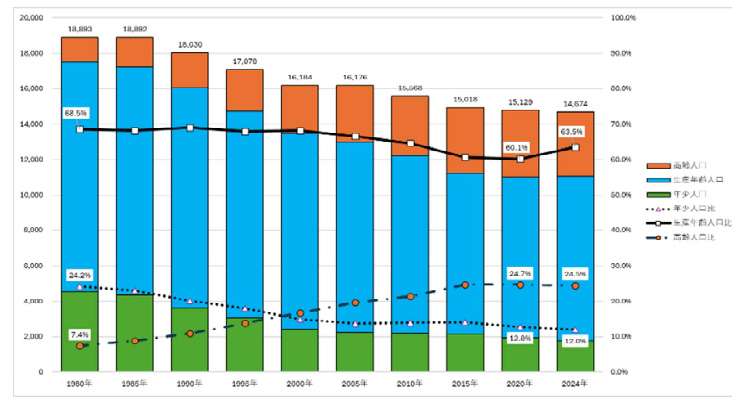
③住み続けたくなるまちをつくる

- ・住民が将来にわたって安全・安心で暮らしやすいまちの実現
- ・住民全てが互いの文化や習慣を理解し、認め合う多文化共生のまちの実現

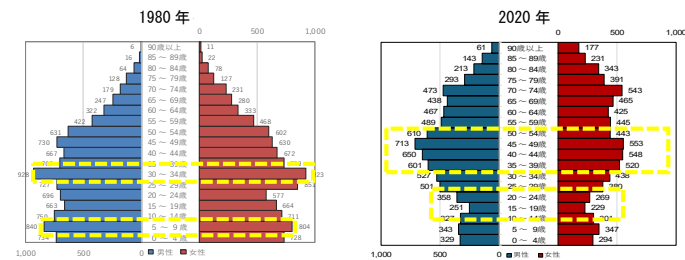
④人の流れとにぎわいをつくる

- ・地域の玄関口となる北海道新幹線の開通など直面する課題への真正面からの取組
- ・恵まれた自然環境を活用した「世界に誇れる国際リゾート」への発展

■3階層別人口の推移（1980年～2024年）（人）



■性・年齢別人口構成の変遷（1980年→2020年）（人）



人口の将来展望（2020年～2050年）

【人口の将来展望】

倶知安町人口ビジョンは、人口減少の緩和を目指す取り組みや、今後想定される外部要因の変化等を考慮し、2050年時点で14,177人になることを目標とします。

【自然増減について】

若い世代の転入者が多いため、合計特殊出生率を維持し、住環境への対策、妊娠、出産、子育て・子育ての切れ目ない支援、国際色豊かな環境を活かした教育など様々な施策により、若い世代の出産・子育てしやすい環境を目指します。

【社会増減について】

①外国籍住民の増加

「世界に誇る国際リゾート」を目指す本町において、季節により差はあるものの、通年で暮らす外国籍住民も増えており、今後も増加すると予想しています。

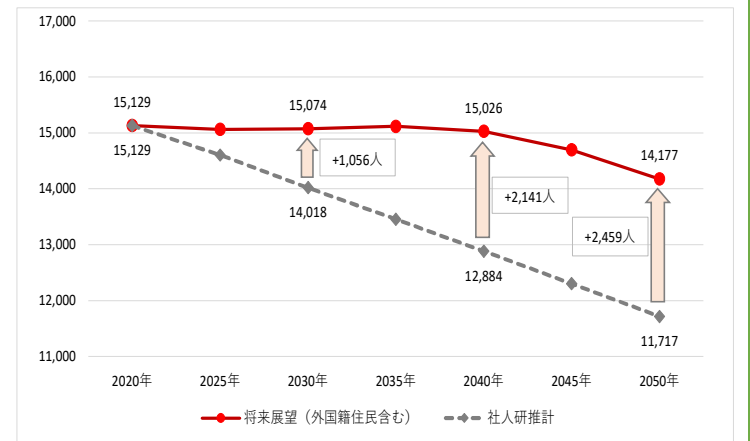
②高速交通ネットワークの整備

北海道新幹線倶知安駅の開業（2030年度以降に予定）と高速道路「倶知安余市道路」及び倶知安インターチェンジ整備の実現により、後志周辺地域における交通と観光のハブ都市化が進むと予想しています。

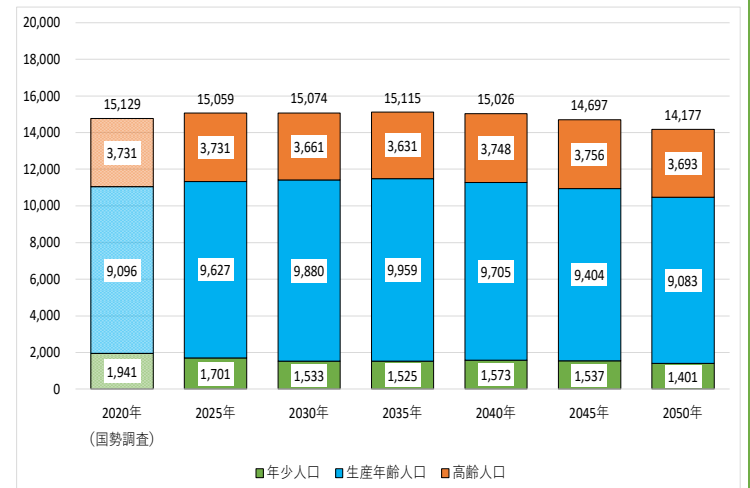
【外国籍住民の人口推移について】

定住する外国籍住民が増加傾向であることから、本町の人口減少は他自治体と比較し、緩やかではありますが、この動向を楽観することなく、「人口減少社会」、「人口希少社会」という現実に向き合い、国際色豊かな町の特性を活かした施策と、多文化共生のまちづくりを進めることが重要です。

■人口の将来展望（2020年～2050年）（人）



■年齢3区分別人口の推移（2020年～2050年）（人）



■外国籍住民の人口推移（目標）（人）

